

会 議 録

会議の名称		第72回小金井市公立保育園運営協議会次第
事務局		子ども家庭部保育課
開催日時		令和6年1月20日（土）午後3時30分～5時45分
開催場所		市役所第二庁舎801会議室
出席者	五園連	市岡 幸大 委員（くりのみ保育園） 斎田 香菜 委員（くりのみ保育園） 大島 康宏 委員（わかたけ保育園） 石塚 保章 委員（わかたけ保育園） 柏木 紘子 委員（小金井保育園） 関田 紗友里 委員（小金井保育園） 大石 裕佳 委員（さくら保育園） 中岡 秀一 委員（さくら保育園） 中澤 超 委員（けやき保育園） 田畑 健 委員（けやき保育園）
	市	堤 直規 委員（子ども家庭部長） 中島 良浩 委員（子ども家庭部保育課長） 前島 美和 委員（くりのみ保育園園長） 杉山 久子 委員（わかたけ保育園園長） 小方 久美 委員（小金井保育園園長） 柴田 桂子 委員（さくら保育園園長） 池田 由美子 委員（けやき保育園園長）
欠席者	五園連	
傍聴の可否		○可 ・ 一部不可 ・ 不可
傍聴者数		1人
会議次第		1 開会 2 議事 (1) 前回会議録の確認 (2) アンケートについて ① 令和6年度アンケートの実施について 改善点の洗い出し (3) 公立保育園でのおむつの持ち帰り廃止について (4) その他
発言内容・		別紙のとおり

発言者名（主な 発言要旨）	
会議結果	1 開会 2 議事 (1) 前回会議録の確認 (2) アンケートについて ① 令和6年度アンケートの実施について 改善点の洗い出し (3) 公立保育園でのおむつの持ち帰り廃止について (4) その他
提出資料	なし
その他	なし

開 会

- 堤委員長 それでは、ただいまから、小金井市公立保育園運営協議会の会議を開催いたします。
本日は、欠席、遅刻の連絡等は特にいただいておりません。
今年初めての運協となります。皆さん、今年もよろしくお願ひします。今期の任期としては3月までということになりますけれども、引き続きよろしくお願ひします。
今日はアンケートの議題のほか、各期についてのまとめというのもしていただいているところなので、その辺についてのお話とかも、今回と、次回でさせていただければと思っています。
- それでは、議事に従って進行させていただきます。(1)の前回会議録の確認ですが、特段の修正のお申出はありませんので、校正を依頼した内容をもって確定させていただきます。特にご意見、ご異議はございませんでしょうか。
- うなずいていただいてありがとうございます。では、そのようにさせていただきます。では、アンケートについてです。
- 集計結果については、前回、資料285として配付させていただきました。保護者への集計結果の通知については、前回確認したとおり、周知文の紙配付と一斉メールを併用する形で、実施いたしました。
- 来年度の実施については、メール通知、紙通知に加えて、父母会の掲示板の三つともやると。この辺についてはメモとして書かせていただいています。
- それから、次年度の実施に向けた改善点、設問数、選択肢、設問内容の見直し等について、今回と次回で、ご意見をいただいてまとめていければと思っています。
- 中島委員 補足で。保育課長です。
- 堤委員長 お願いいたします。
- 中島委員 今、申し上げた部分、本日の協議の参考にしていただくために、前回の確認事項ということで会議資料ではございませんが、お手元にメモとしてご用意をしております。あと、参考としまして、前回、学童保育所のアンケート関係の話題が上がりましたので、児童青少年課から、学童保育所の利用者アンケートを参考として席上に配布させていた

だいております。あくまで参考なので会議資料として資料番号をつけたものではございません。こういったものを踏まえて、本日はご議論をぜひいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○堤委員長 五園連の父母会としてのご議論は、この後ということになってくるというところではいいですか。今日ご意見があるところはいただきますけれども、さらにお持ち帰りにもなられて、次回のところで、アンケートの具体的な設問とかをこうしようみたいな案をまとめていくという進め方でいいですか。

○大島委員長 本日、五園連の中で、アンケート結果を踏まえて、五園連として聞いておきたいとか、意見しておきたい、要求として挙げたいところはまとめてきました。改善についてのところは、意見を出し合っていますが、具体的などころまでまとめていませんので、まずは、今年度のアンケートを踏まえてというところをお示しするのは、今期予定しています。ですので、設問をどうするかそういうことに関しては、まだそこまで議論ができていなく、次回、または違う回にできればと思っています。

○堤委員長 五園連として、今日は、この後思いついたこととかあれば自由に言っていただきたいとは思いますが、その上でまとめるのは次回に向けてとなるじゃないですか。できるだけ次回で、次の任期の方のところを持ち越すものはあるかもしれないですけど、仮まとめみたいなのができるといいと思います。次回の前のところで、五園連としての集約はできそうですか。

○大島委員長 五園連が2月の開催はなくて、もう3月の運協の日の前段階しかなくて、そのときに五園連で集約して、運協の中で最終討議というのができるんですが、時間の関係もありますので、やれるところまでやるという、そのイメージではいますが、あとは別途、何か委員長を通してというところで。

○堤委員長 そうですか。では、段取りのイメージとしては、ちょっと今日の後、各委員に持ち帰っていただいて、次回の3月の運協の前のところで五園連としての集約をしていただく。それをその後の運協で、話し合っ決めてられるものは決めていって、あとは恐縮ですが、両者預かりとさせていただくか、場合によっては、次期委員のところを考えていただいたほうがいいのかという形で整理をすとか、そんなところですかね、イメージとしては。

○大島委員長 はい。分かりました。

○堤委員長 ご要望をまとめたところは、今いただくのか、それともこの後いただくかたちとするか。

○大島委員長　先に1個伝えましょうか。ちょっとそれについて今日の場での意見交換をしたいですし。

○堤委員長　そうすると、恐縮ですけど、設問はそういう形で持ち帰っていただいて、ご意見とかをまとめていただくとかというふうにして、今の段階で、特にここは気になるなとかと問題提起したいことがあれば、いただく時間をつくって、その後、今日のメインは、そのご要望についての意見交換になると思うので、という順番のほうがいいかなと思ったんです。設問のところを急に投げかけられても発言しにくいと思うんですけど、ここは、というのがあったら、ぜひいただければと思います。

○中島委員　先に行政側から。本日、学童のアンケートを参考で配付しておりますので、その点も含めて、あと、今までの議論の経過も含めてですけれども、まず、アンケート自体、ぜひ回答率を上げたい。回答するに当たっても、前回、学童のアンケートよりも設問が多くて答えにくい部分があるんじゃないかとかそういった部分もございました。そもそもアンケートの実施自体が、先ほど大島さんがおっしゃったように、そもそもは五園連さんが市に対して要望をまとめるときに、父母に対してアンケートをしていたというのが、この始まりになっているそうです。

この運協が始まったときに、平成26年辺りですね、じゃあ、この運営協議会の中で、運営協議会として、アンケートのほうを合同実施していこうかという話になったので、こういう運協のところでアンケートが議題になっているという過去の経過がございます。

ただ、当時から10年とは言いませんけれども、かなりの年数がたって、状況が変わったり、あと電子、オンラインで答えるようになってとか、状況は様々変わっておりますけれども、保護者の方のご意見もいろいろ変わっているのかなと、答えやすくしたいとかですね。

ですので、そういった部分の視点も含めて、行政側としては、前例にとらわれず見直したい、という部分はありますけれども、あくまで五園連の方が要望を取りまとめるスタンスで見直しをしていただく部分になるので、細かいところについては、保護者委員の方でご議論いただく部分になるかなと思ってございます。

その上で、仕組みとして、やはり答えやすさとか回答のしやすさで、前回あったように、公立保育園は認可の保育所として第三者評価も受けなきゃいけないので、そういった部分で、第三者評価では必ず利用者のアンケートを取らなきゃいけないとか、決まった仕組みがある中で、アンケート自体がかぶったりするのはどうかとかご意見もありま

した。そういった部分をぜひ調整をしたい。やり方については調整をして、保護者の方が答えやすくしていく視点がいいかなと思ってございます。

項目の答えやすさのところ、学童保育所のお話が以前に出ましたので、今日、参考資料のところでお手元にお見せしているんですけども、こちらでもウェブ上でお答えできるような形になっていまして、設問としては非常に簡素なんですけれども、選択肢の項目を先にぱっとやってしまって、最後に自由記述という、シンプルなつくりになっています。ここは、今、保育のほうでやっているアンケートと見比べたときにも、かなりすっきりさが違うかなと思ってございますので、見直しの視点としましては、具体的に全体的な評価と評価の理由、あとは、保育に関して言えばそういうニーズ等についてを選択肢で伺うのか、こういう自由記述で伺うのか。そういった形について、答えやすさの部分では、項目の見直しというのは、学童保育所の利用者アンケートなどは参考になるかなと思って、本日もご提示をしております。

先ほど、進行の中で、今日は各自お持ち帰りいただいて、どういうことができるか、あとは五園連さんでおまとめいただくような流れがありますので、まずは会議上で、行政側として今日お配りした手持ち資料も含めての見直しの視点の参考になればと思って発言をさせていただきました。

私からは以上になります。

○堤委員長 ありがとうございます。今の説明を受けて、まずご質問とかあれば伺いたいと思います。ご覧いただいといるところですね。

どうぞ。

○齋田委員 そうですね、このアンケート自体、今ちょっとおっしゃられたように、もともとは、こちらの何ていうか、保護者側の意見を小金井市に対して何かしらの自分たちの意見を発信したいというところからスタートしたんですか。

○中島委員 はい。前回、夏に市長が出席して、市との懇談会というのを開きましたけれども、ああいう懇談会に向けた要望の取りまとめというような意味合いで始まったと伺っております。私も当時いなかったのですが、記録はそういうふうになっております。対市懇談会の要望事項の洗い出しを目的として、五園連で実施していたアンケートが既にあったそうです。

多分過去からずっと五園連さんでやられていたけれども、保護者委員の方と行政側の共同委員長2人でやる運営協議会ができました。そうすると、共同で委員長ですから、

その形の会にアンケートが移ってきた。共同で委員長ですから、行政側も実施に関わってくるようになったという経過はあります。

○齋田委員　それが平成26年から始まって、ずっと続いているということなんですけれども、すみません、正直このアンケートって、何か急に回答してくださいみたいな感じで、何だろう、正直この意義みたいなのをあまり私自身分かっていなかったような部分があって、何でそもそもやっているのか、何に向けてのアンケートなのかとか、何かそういった背景がちょっと何もこう、もやもやして分からないままの中で回答されている保護者の方は多いのかなというのは、ちょっと感じていて。何かこのアンケート自体、そもそも何か、何だろう、やらなきゃいけないものとして、平成26年からずっと続いていっているものかなとは思いますが、先ほどおっしゃられたような、第三者委員会でしたっけ、そのアンケートも別で実施されている。

○中島委員　おっしゃっている部分の側面は、行政としてはあるかなと思っています。多分、齋田さんがおっしゃっているのは、このアンケートと第三者評価のアンケートを記入するに当たっての部分で、重複するような意味合いの部分もあるんじゃないかというところは、おっしゃるとおりかなと思っています。

その辺は、大島委員長、五園連として、アンケートそのものの部分というのは、今、齋田委員がおっしゃっていただいたような疑問というのは何か議論があったりしますか。

○大島委員長　そうですね、毎年取っているという側面も実はあったのかなと思っています。ただ、もともとの取るというか、やっぱり保育ニーズの把握ですとか、何を市に対して意見を求めるかというところの確認ですとか、やっぱりそういうところの意義が大きかったのかなと思います。

という中で進んできていますから、アンケートの意義というのは、どこかでやっぱり議論すべきかなとは思ってはいました。何のためにというところもありますし、実は過去のもう3年、4年前の運協でも、アンケートを取っただけでそれを生かしてないねという話は、結構運協の場でも話をしていました。というのも、アンケートを取るのが遅過ぎて、結局もう取って、次の年も来て、取ることを続けているみたいな、そんなときもあって、もう少しこれを生かしたほうがいいじゃないかとかという議論は、そのときにはあったんですけど。

ですので、こういう機会ですので、もう一回その再定義とか見直しというのはした上で、こういうアンケートなので皆さんご協力くださいというところを打ち出せるほう

がやはり望ましいかなとは思いますが。

○齋田委員 大島委員長、ありがとうございます。何かその背景とかというのが多分よく分からないまま回答を求められてしまっているというのは、ちょっと、何だろう、個人的には、アンケート自体のボリュームが結構大きいものかなと思っていて、今、配っていただいている学童のアンケートは、それよりもかなり、これで全部ですよ。かなり回答しやすいなとすごい個人的に思っています。保育園を利用している保護者全世帯に回答を求めるといふものにするのであれば、もう少しこれぐらい、何ていうか、もう軽いものに、ボリュームを少し減らしてもいいんじゃないのかなとは、ちょっと今、お話を聞いていて思いました。

そもそも何か手段が目的になっているみたいな、アンケートを取るだけで終わってしまっているというのは、かなり負荷が、多分、市の保育課の方々にもかかっているということかなと思っているので、そこはもう一度改善をするべきかなと思いましたが。ちょっとすみません、うまくまとまってないんですけど。

何かアンケートを取るにしても、アンケートを取ることで、その後の流れとか、こういうふうには生かしていきますとか、保育園の先生方にも開示しているので、ぜひ率直なご意見をとか、もう少しそういう説明をするだけでもいいのかなと思うんですけど。

○中島委員 ありがとうございます。おっしゃっている部分、本当にあるかなと思っております。なかなか行政側としては、スタートが五園連さんのベースで始まって、今おっしゃっていただいたように、例えば保育士さんが見て保育に生かしていくようなアンケート結果として現状は活用できていないかなというのが、行政側として感じています。これは、私どものほうの公立保育園で働いている保育士にこの結果をフィードバックしても、なかなか伝わりにくいアンケート形式と結果の状態かなと、率直におっしゃっているとおりと思っています。

スタートの部分が、繰り返しになりますけれども、五園連さんという団体として大きく意見をまとめて市へ要望するみたいな仕組みだと、仕組みとかそういう部分での視点のスタートだったものが続いてきているのかなと思いますので、現場の保育へのフィードバックというよりは、行政への要望とか、例えば予算的な要望だったりとか、そういったものの側面だったりするのが強いというのは、おっしゃるとおりと思っています。

○齋田委員 何だろう、今、行政向けのアンケートというふうにおっしゃっていただいたんですけど

ど、結構アンケートの回収結果を拝見すると、本当に保育園の先生方への日々の感謝であつたりとか、本当、毎日の保育園での何ていうか、出来事だったり、保護者の方の思っている気持ちだったり、何かそういったことを書いている内容が結構記述欄に見られたので、何か保育園に向けてなのか行政に向けてなのかみたいな、質問をちょっと分けるのか、保育園に向けての質問ではなくて、あくまで小金井市の行政に向けての意見をお願いしますという設問に変えるのか。何かそういった問いかけの表現を変えるみたいなこともしたほうが、そもそものアンケートの目的に沿うのであればしたほうがいいのかなと、今、ちょっと思いました。

○中島委員 そこですよ。そこが多分今まで整理がなかなかされていなかったのかなと思います。

スタートが五園連さんが行政への要望を出すというもののスタートで始めたので、それとは別で、日々の保育の部分とかに関しての第三者評価を受けるに当たっては、受審する園さんの保護者の方にお答えいただいていますけど、第三者評価の中での保育園の利用者に向けたアンケートを取っていたりとかもしますので、その辺は確かに今、簡単にいうと未整備というかきれいに伝え切れていない。アンケートの意義という部分も今のご意見だと保護者の方が分からなくなっているというか、表現が。率直に、先ほど何のためにやるのか、どうしてやっているのかが分からない保護者の方が、そのままボリュームの大きいアンケートをいただいてという状況になっているというご意見ですね。

そういった部分がアンケートの見直しの一つの考える視点になるのかなと思います。ありがとうございます。

○斎田委員 ありがとうございます。

○市岡委員 今、アンケートの結果をちょっと見ていたんですけど、やっぱり見る感じ、質問としては、小金井市の保育についての質問になっているんですけど、結果的にやっぱり各保育園に対しての何か要望とかがやっぱり多いなというふうには思うので、小金井市に対してよりは、やっぱり保育園に対してのほうが多分意見は出やすいのかなとは思っているので、そういうやっぱりアンケートとか、なかなか運協のアンケート以外に機会というのは多分今ないのかなとは思っているので、そこでしっかりと書いていただいて、分析ができていないんですけど、そういうのを各運協の委員とかが役員会とかで持ち帰って話をしていけば、有効的なアンケートになるのかなとは思っているので、何かそこは各保育園に対してのところをメインとしたアンケートにしたほうがいいのかなどは、私も今、見ていて思いました。

以上です。

○堤委員長 関連して、その目的とか性質みたいなところでご意見とかあれば。

そうすると、その辺も含めて五園連でご検討いただけると。

このアンケートを何のためにどういう設問でいいというのは、行政として発言、コメントがしにくいんです。システムとの関係でこういうふうな形にしたほうがより入力とかしやすいですよとか、あと集計等に向かっての見やすさとかという意味では言えるんですけど。制度としては第三者評価のアンケートというのがあって、それとはまた別または補足する形で五園連としてのアンケートを始めて、今もこういう形で続いている。一番のポイントは、この運協で扱えていますので、そのやり取りがあるということのかなと思うわけです。

でも、そういうところで、重なる部分があってもいいんですが、目的とか住み分けのところちょっと整理をしていただけるとより答えやすくなるし、何のためにというのでも分かりやすくなるのかなと思いました。

それ以上のところは、なかなか今日は進めにくいと思いますので、持ち帰っていただいた中で、次回、そういった形に沿った整理ができればと思うんですが、そんなところでよろしいですか。

○大島委員長 ちょっと私も補足もしますけど、過去も見直ししようという話はやっぱり上がっていました。ただ、アンケートを取るのが、やっぱり夏前に作るので、期が始まってから、慣れていない方が多い中でのどうしようかという議論だったので、やっぱり見直しは難しかったですね。どこを削るかというところもなかなか決まらない。付け加えるのは比較的簡単なんですけど。今言っている、整理していくというところは、今までもやろうとしていたけど難しかった。ただ、今回は、今からもう取り終えた今のタイミングでやれば、前よりはやりやすいのかなというのは考えています。

じゃあ、実際のところといいますけど、ちょっとこれは運協委員の皆さんの話になりますが、五園連が2月にないですし、3月の五園連で議論も難しいですので、もう持ち帰って皆さんの中で決めていくしかないんですけど、その辺のイメージはできますかね。多分、お互いに、LINEでもいいんですけど、ここはこう削るとか、ここは統合していくかということをもう運協委員の中で完結していく、意見はもちろん自園の五園連とかに聞いてもらってはいるんですけど、実質やっていくのは、もうこのメンバーの中で整理していくという形になりますが、そういうイメージで大丈夫ですかというのは、ち

よっと私のほうから確認させてください。

○齋田委員 運協委員の中で、この中身を改修をするというのは、これぐらいの人数じゃないと何かそんな大人数で決める話でもないかなと個人的には思うので、すごくいいかなとは思いますが、変えるの前に、そもそもこのアンケートの目的をもう一回定義し直さないといけないんじゃないかなと思ひまして。平成26年に始まって、もともとは行政に対して保護者から意見を投じるツールとして始まったというのがありますけど、多分、この記述欄を見る限りでは、保育園に対するご意見というか、保護者の声が結構多く見られるというのもあるので、行政に対しての要望というか、行政に対するアンケートではなくて、保育園に対する意見。意見というか、保育園に関してのアンケートみたいな形で定義し直すとか、何かそこから考えていくべきなのかなと、今、ちょっと思ひたんですけど。何かそもそも、じゃあもう目的が、もし、何かもう不明というか、あまり定義できないのであれば、正直、最悪やらなくてもいいとなっちゃうのかなと思ひて、みんながしんどいだけなので。

ただ、個人的には、すごくこの記述欄を見ていて、皆さん、保護者の方はこういう思ひを持っていたりとか、他園の、私はくりのみ保育園ですけど、ほかのさくら保育園さんとかわかたけ保育園さんとかの保護者の方は、こういうふうな意見があるんだとか、そこを見られるのは個人的にはすごくいいアンケートというか、意義はあるかなと思ひたので。何かここからかなと思ひちゃったんですけど。いや、何か私ばかり言っているんで、ほかの方も何かご意見あれば教えていただきたいなと思ひんですけど、いかがですか。

○中岡委員 お話はまさにおっしゃるとおりだなと思ひて。そもそも誰が何のためにどういう目的でやってきたかというのが、五園連を中心だったときには比較的明確であったのが、運協に移っていったときに、比較となる、総体的には公立保育園のサービス向上という、総体の目的は非常に一緒だったが故なんだけれども、じゃあ、そもそもそれをどういう目的感の設問を仕掛けたら最善のニーズが聞き取れるかみたいなことの主体性が、五園連は五園連らしい尖り方がきつとあったんだと思ひんですけど、こういう場になったときに、それがどういうふうにもう一度定義し直せるかといひて、そういう、どういう目的かでこのアンケートを引き継いでやっていけるのか、その目的にちゃんと合った設問なのかみたいな見直しをやっぱりやらなきゃいけないだろうなと。持ち帰る上でも、そういう感覚、何かしらの方針づけというかイメージを持ってチェックをしなきゃいけ

ないんだろうなというのは思いました。

○田畑委員　いいですか。意見を聞いていて、多分もう10年近くたっているということで、当初の目的と時代も変わってくるし、若干やっぱり変わってくところも当然あると思うので、やる、やらないも含めて見直しをするタイミング的にはいいときなのかなと思いますし、学童のように簡素化して、例えば、行政に対しての意見、自由意見と保育園に対しての自由意見みたいな感じに作り替えるとか、いろいろやり方はあると思うので、そういうそもそものところと、あと、当初はもう五園連から始まったという話が、ちょっと行政側からなかなか変えづらいというようなご意見があったと思うんですけども、もう運協でやっていることなので、市側の意見とかも積極的に取り入れてもいいのかなと。父母会側と行政側とで新しい形にどんどんブラッシュアップしていくという感じで、もう当初の目的とはちょっとずれてきているところもあると思って、行政側の意見もどんどん取り入れていいのかなと個人的には思いました。

以上です。

○大島委員長　今、田畑委員からありましたように、共同委員長でやっているの、やはり市側のほうも意見としては取り入れるべきというのは、私もそうだなと思いました。なかなか言いにくいという事情があるというお話は聞いていますが、やはり連名を取っていますので、多分伝えられるポイントと伝えにくいポイントがありますので、そういう面でちょっと改善というところで、イメージを持っていらっしゃるのであれば、こういうところを、先ほど簡素化というイメージの中でこの資料が今日出てきたと思うんですけど、そういうところはもう少し積極的に伝えていただいたほうがお互いのために。あと、目的というところも、市としてはこういう目的も実はあるとか、そういうところは率直にいただいたほうが、やはりいいものになるのかなというふうには思っていますので、この後、何かありましたらぜひご発言をお願いいたします。

○中島委員　繰り返し、なかなか行政側の立場をお伝えするのは難しいです。五園連さんとしてこの場でこの後要望を言われるんですよね。そこに活用されていらっしゃるというのが一番大きいので。やはりそこなんですよね。今日、行われた五園連の会議で要望をまとめるのにも使用されているアンケートなので、やはりそういった部分が第一と考えています。今、ご意見の中で、運協に移ってきたんだから、その運協の中でアンケートの議論で行政も含めていいんじゃないかというような見直しの視点は一つあるとは思いますが、まだそこがフィックスされていないんですよね、五園連さん側で。

なので、そこがクリアになるところが一步目、もしそういうふうにして市のほうでアンケートの内容の具体的見直しへの意見をお伝えするにも、そこがクリアになれば一つ進めるかなというのは、立場的には率直に思います。現状、まだ五園連さんの中での議論で、市への要望のまとめに活用されている部分があるアンケートなので。

○堤委員長 行政の立場では、認可保育園のための基本的な仕組みである第三者評価のアンケートというのが基本になって、あえて言えば、それをより実態を浮き彫りにしたいとか、今おっしゃったように五園連という団体としても要望の取りまとめをしたいとかというのが、目的とか価値とかにつながるんだと思うんですね。なので、その辺がないと発言がしにくいのです。究極で言えば、制度的には第三者評価のアンケートでやっていますということになってしまうので。

○斎田委員 第三者委員会のアンケートというのは、基本的には、行政の方だけが見られるもの、回収した結果という。

○中島委員 第三者評価は、公民問わず認可保育園が受審しますが、ホームページ上で、ネット上で結果は公開されるものです。各園で受けられて、各園の中で、最後、報告としてまとめてからですけど、その報告というのは公開をしなければいけないとなっていますので、インターネット上で公民問わず公開をされるものになります。

なので、一般市民の方も見れます、結果を。そこで自由記述とか当然ありますよね。ああいったものも公開をされます。

○斎田委員 そのアンケートは、すみません、これは大島委員長にお伺いするんですけど、五園連として保護者の要望をまとめる際には、そのアンケートは見ないというか、そのアンケートを元資料というか、何か、そこは見ない。

○大島委員長 第三者評価のアンケートは、ちょっと毛色が違って、やっぱりそこまで突っ込んだ保護者の要望が書いてあるわけではなくて、あくまでも、これは市じゃなくて、都ですかね、これを取っているのは。都が取るものでしたっけ。取る主体も、結局その基準に沿っているかどうかを満たしているかどうかという基準を基に取りますから、やっぱり取る目的が違うんですね。ニーズの把握がないわけじゃないんですけど、私たちはニーズの把握じゃないですか。目的が違うので、そこから拾っているということはしていませんね。ただ、参考にしたほうが良いというご意見はもっともかなとは思いますが。それから毎年取っているわけじゃないので、全園を、そこはやっぱり3年に1回ですかね。

- 中島委員 そうですね。
- 大島委員長 ですので、もうそこは参考にはすごいなるとは思いますが。
- 斎田委員 ありがとうございます。何かそのアンケートも、そっちのアンケートを基資料じゃないですけど、もう何ていうか、使うということにしたら、何か重複を防げていいのかなと思ったんですけど、毎年全ての園が対象ではないということなんですね。
- 中島委員 第三者評価は、アンケートだけではなくて、園内の保育の部分についても評価機関が入ってやり取りをするんです。結構、園側としては、対応するのに負担が大きいんです。だから、今やれている部分としては、求められている、3年に1回は受審しなさいというサイクルを活用させていただいているんですね。そういった部分で毎年はやっていないです。
- 中澤委員 ちょっと話が分からなくなってきたんですけども、行政側としては、第三者評価委員会のアンケートのほうを何か重要視している。
- 堤委員長 重要視というか基本ですね。それはやらなきゃいけないわけです。
- 中澤委員 やらなきゃいけない、基本としてやっている。なので、そっちはやらなきゃいけないものです。とって、こっちのアンケート、五園連のアンケートのほうはあんまり見られていない感じなんですかね。何かフィックスされないと、こっちが保護者側でフィックスされないと、市としてのアンケートの意見として出せないというのが、我々から見ると。
- 中島委員 そこはちょっともしかしたら誤解が。そのフィックスのところは、あくまで五園連さんがこのアンケートの結果、当然私たちもこういうふうにやっていますし、結果を見ていないとかそういうことではなくて、この結果が出た後の活用が、五園連さん側の内部で、市への要望を取りまとめるベースになって議論されているのに使われていらっしやるので、そもそもアンケートの成り立ちもそういった部分のスタートがあったので、そういったところが、今、田畑さんがおっしゃったように、そういった部分じゃなくて、運協にもうアンケートが移ってきたなら、五園連どうこうではなくて運協の中で、行政も保護者も、こういうふうにアンケートを書いていったらいいんじゃないかと議論する視点もあるよねというところは、私たちの立場としては、五園連さんが要望を取りまとめるという作業を今日もやられたと伺っていますので、そういったところがある以上、そこが行政も含めて議論するアンケートに変えるという、五園連さん側の中で、共通理解でオーケーとかが出るんであれば、そういう見直しの議論の中で、私たちの立場で次

に言えるようになるのではという意味合いで言ったんです。

ですので、今ここでちょうど出ている議論自体が、五園連さんの本体に持ち帰っていただいて、どういうふうに議論されて結論が出るかというのを踏まえた上で、私たちのほうも、どういう視点でこのアンケートに対して意見が言えていけるかなというのが出てくるかなと。私たちがこのアンケートを見ていないとかそういうことではないです。

○中澤委員 自分が答えなきゃいけない問題を自分で作っているみたいな、そういう感じですか。何か向こうから要望が飛んできて、それに対して対応するのに、その要望の基を自分たちで作成するというのは、そもそも変な話じゃないかということですね。

○中島委員 なかなか言いにくいですけどね。

○中澤委員 まあ、それはいいのみたいな。

○堤委員長 ただ、そもそも五園連、団体として要望を取りまとめることに大きいウエート、先ほど尖り方という言い方もあったと思いますけど、そういうのがストレートに出てくるような設問のほうがいいと、多分なると思うんですね。それなら、そこに目的を置くならそういう形にやっぴりなる。

そうだとすると、独立した団体としての五園連としてのまとめ方というのがすごく大事になるので、そこは、そのイニシアチブでまとめられるのがいいだろうということなんです。行政の言ったこと、よかれと思って言ったことが、そこを中和して尖りにくくなってしまうということもあるわけですから。

我々も今、特に何か考えを持っているわけではないですけど、もうちょっとシンプルなかほうが渡しやすいのかなぐらいでしかないですが、その観点でこういうことは考えられるかな、という感じです。

○大島委員長 私、中澤委員の言ったことがすごい私は分かった、多分伝わって、こういう意味かなと私は思ったんですよ。保育ニーズを把握するのは市としても必要なんじゃないですかと、そもそも。そういうところで、市として積極的に関わらないのは何ですかという、何かないんですかという、多分そういう問いかけも含まれているのかなとは、私は聞いていて。私もそう思っているんですよ。いや、ここは保護者が取るから、だからそれなんですよという、意味は分かるんですけど。市として、いや、保護者の何か意見とか、自分たちの思いとしてこれを把握しておきたいという、そういうことはないんですかと、多分そういう問いかけと思うんですね。

それが、保護者側から決まらなければ決められないということは、主体性がないんじ

やないですかと。まあ言い方は厳しいですけど、その辺はどうですか。

○中島委員　その辺のところをまさにご議論で整理かと思っているんですよね。私たちのところもその辺が、今おっしゃっていただいた部分をはっきりさせていくことで、私たちは、基本は第三者評価のアンケートとかもあるけれども、当然、部長も申し上げましたけれども、保育に対するご意見をこうやっていただいている中で、現状は活用させていただいているし、だからといってそういった側面をどう今後のアンケートで拾っていけるかというところはありませんけれども、主体性ということよりも、私たちの立場として、まず五園連さんのところも尊重させていただきたいということです。私たちもその見直しの中で活用していく部分、特にどういった目的で取っていくかというところ。アンケートでやるのかというところの難しさですよ。現状、各保育園さんで、当然懇談会とか父母会活動もやられている中で、日々の保育のところは、現場の保育士の方とも意見交換していく中で、もう逆に言うと園側に伝わっている部分的な項目のものを再度アンケートで取るのは非効率じゃないかとか、そういった部分の見方もあるわけです。

そうすると、各保育園ではなくて、特に保育課が絡むような大きな取組、予算が絡むもの、修繕とかそういった部分のところをより詳しく聞いたほうがいいんじゃないかとか、当然私たちも主体的に変えられるようなポイントというのは、当然、毎度考えてはいるんですけども、なかなかそこはベースとなる五園連さんの要望の取りまとめの項目とかとどうすり合わせていけるかですね。答えやすさの部分で、大島委員長もおっしゃっていただきましたけど、加えるのは簡単なんですよ。ただ、そうするとどんどん肥大化していくだけで。

なので、答えやすさのバランスをどう取っていくかというときに、私たちも聞けるものとしてどういうポイントとかというアイデアはありますけど、それを無制限に増やしていくことでは、ボリュームだけがが増えていく、答えにくさにもつながるのではないかという部分は危惧しますので、私たちもそういった部分で、ぜひアンケートの内容は主体的にも議論できるものはしていきたいとは思っています。

○斎田委員　ちょっと分からなくなってきました。私も。何か五園連で市への要望を取りまとめるためにこのアンケートがあるというのは、アンケートの統計の選択形式の項目とか記述の項目とかを五園連の保護者の方が見て、こういう意見が多いよね、だからこれを挙げようとか、そういうイメージですか。

○大島委員長　ちょっとなかなか、1回整理させてください。まず、市への要望に対して使っていま

すけど、目的が市の要望を取りまとめるためにアンケートを取っているわけではありません。もっと広い意味でアンケートを取っていますので、もちろん自分の保育園で困っていることはないかとか、またはいいところ、悪いところは、皆さんどういうふうにしているのかなというのを把握したり、保育の質のポイントを把握したり、それプラス、こうしてもらったらいいかなというニーズも把握していますし。もともとのアンケートは、やはり保育園の中で、どう保護者の方が思っているかということ全体的に取得するものというところだと思っています。

それを要望が出ていたら、それを要望として取りまとめて、市への要望として挙げているというものですので、何ですかね、もともと始まっている五園連のアンケートも、やっぱり私たちもアンケートを取ろうと思ったら、みんなどう考えているのかな、何か困っていることないかなとか、ここは満足しているのかなとか、何かそういう漠然としたことをやっぱり把握したいし、困っていることはやっぱり吸い上げたいと思うじゃないですか。そこは大きく変わらないとは思っています。その中で、経年で取っているの、経年比較ができるものはできるようにしていこうとか、そういう工夫は入っていると思うんですけど。やはりそういうものかなとは、現在もそうかなとは思ってはいません。

それだから整理がされてないというふうに、もしかして見えてしまうのかもしれないですし、これが市向けなのか、あとは保育園向けなのか、運協向けというのがありますし、今、何のための目的なのかというところも特化しないで取っているのかなというところがありますね。

逆に、特化しないからこそ、それをピックアップして、いろんな目的でこのアンケートが活用できるという利点もありますし、一方、多くなっていて、ちょっと答えるのが大変という側面もあるので、そこを踏まえて整理したほうがいいんじゃないですかというのが、多分皆さんの共通認識だと思っています。

○市岡委員

じゃあ、結論は、活用がうまくできてないよということですよ。今、ただ取っているだけ取っていて、五園連でも、特にその話は、私はちょっと、すみません、私の知識、認識不足かもしれないですけど、特に何かこのアンケートの結果でこういう要望が挙がってきたよというのは、特にくりのみの中では、五園連からお話が出ていないですし、何かその結果のレビューというのを受けていないので、多分本当に何も誰も動いていないような感じになっているのかなという認識なんですよ。

となると、まず、五園連としての取組、運協としての取組をまずこちらがまず変えて

いかなきゃいけないのも一つあるのかなというふうに思うんですけども、そこはいかがですか。

○大島委員長　　ちょうど今日の五園連で、各園の挙げたいことを考えてきてくださいという中で出してもらって、それを基に今日集約したものを私が持ってきているんですね。それで、各五園連の中で、一応議論はさせていただいてきたと思っています。アンケート結果を見て、私たち、自分たちの園の中では何を市へ挙げたいかということはピックアップしてもらって、それを集約するというのはやっていますと。それは昨年度もやっていますと、その結果を市に示して、回答ももらっていますと。で、回答についても保護者へのフィードバックもしてくださいねという形で、どうされたかは、ほかの園は分からないですけど、わかたけではやっていました。

一つは、アンケート結果、反映されたものもあればされないものもある。こういう理由でこうなんですよということは伝えていきます。

○市岡委員　　分かりました。多分そこが、しっかり、もしかしたら私の認識の中でちゃんとアンケートのニーズとその後のレビューの仕方、反映の仕方というのが、多分引継ぎを含めて、ちゃんと多分五園連との連携が取れていなかったのかなと思うので、そこは来年度の課題として、しっかりくりのみのほうに持ち帰ります。

別の質問よろしいですか。今日持ってきていただいた学童のほうのアンケートは、こちらは、児童青少年課が主体でやっているアンケートになるんですか。

○堤委員長　　僕も4月から学保の運協に出ているので、経過を詳しくは知らないんですけど。基本的には項目はずっと一定で、実際には最後の設問だけ変えたんですね。最後の設問は、施設の広さとかそういうことに関する設問だったんですが、今、大規模化でそこに課題があるのは明らかなので、運協でも協議をさせていただいて変えています。それを除けばこのところは同じものを定点的に聞いていると見ています。項目を増やすかという話もあるんですけど、定点的にあとこれぐらいの項目数のほうが答えやすいという形でこういう形になったと、そう伺っています。

○田畑委員　　いいですか。去年、私に関わったので。

ちょっと直接保育園と関係ないですけど、学童側は、もともと市直営で全部学童があったんですけど、その一部が民間に委託に変わりますよというタイミングがあって、市の直営のほうと民間委託のほうで、保育の質の内容に差がないよねというのを確認することを目的として始まったものになります。

昔はやっぱり紙面でもうちょっと項目数が多かったらしいんですけど、私がいるときにウェブ上になって、そのとき設問数が制限があるのでこういう簡素化された。紙のときは20何問あったんですけども、簡素化されて15ぐらいになって、あとは自由意見でいっぱい書けるようにしようという形に変わりました。

以上です。

○堤委員長 すみません、ありがとうございます。

一番大事なところで、委託導入のときの検証のためだったんですね。

○市岡委員 ありがとうございます。これって、今の要望とかご意見を書くところがあるじゃないですか。これに対して何か要望とか質問があった場合は、これを取りまとめて行政のほうからとか、何か回答とかというのはされたりとかしているんですか。

○堤委員長 運協のほうで、学保の運協は、そもそも毎年やっているんですけども、9月ぐらいの運協とかのところで、各所についての要望という形で、協議会側の委員の方からご発言をいただいている、それを予算要求の参考にしたりしているわけですね。来週、週明けに、学保運協があるんですけど、その段階に応じた説明をする予定です。行政側としては、まず、児童青少年課、こども家庭部として予算要求をしたか、次に、要求をしたとして、それが当初予算案として採択されたか、全体の優先順位の中で。最後に、3月の段階で議決をいただいて成立したかという、大きく言えば3段階あります。以前は3月の議決をいただいたところで説明するというスタンスが強かったかもしれないんですが、今年になってからは、その途中段階も話しにくいところもあるかもしれないんですけど、説明しようねという話で、次回の運協にも臨もうとしています。来週火曜日なんですけど。

○市岡委員 ありがとうございます。そういう議論が中で一番できるのが、アンケートする意味でもあるのかなと思うので、何かそういう姿に、保育園の運協もなればいいのかないのかなというのが私の意見です。

すみません、以上です。

○田畑委員 すみません、よろしいですか。けやきの田畑です。確認なんですけど、次の3月である程度方向性みたいなのをここのメンバーで決めるという認識で合っていますか。

○堤委員長 このアンケートがですね。

○田畑委員 アンケート、保育園のアンケート。

○堤委員長 本当に成案としてまでまとまるかは置いておいて。

委員の改選がありますから、大体継続するものは継続して、ここの部分をこういう形で見直せたらという案のようなものがまとまっていて、次期に引き継げると、実施時期とかも含めて、どうしても慣れる中では7月とかになるとは思うんですけど、よりスムーズにできるのかなというところですね、前回説明させていただいたのは。

○市岡委員　　そうすると、ここのメンバーで考えて、やっぱり五園連のほうの意見はどのようにして取り入れて反映して、結局、やっぱり行政側となるべく合わせていきたいというところもあると思うので、五園連側の意見を吸い上げは、大島委員長、どうしますか。

○大島委員長　　難しいところもあると思うんですけど、運協というのは五園連の各園を代表して来ているので、そもそも五園連メンバーなんですね。なので、各園の調整は、自園に関しては自園の運協の方が調整して、それを運協のメンバーを横串で統合すれば、理論的にはできますねというのを先ほどはしていたんですね。

○市岡委員　　私たちの意見で結構変えられるという認識では。

○大島委員長　　いや、運協委員は、自園の五園連を代表しての運協委員なんですよ、もともと、立場的に。ですので、自園の取りまとめは、運協委員のほうでやってくださいと。その上で横串の五園のところをこのメンバーでそろえると五園連全ての意見を統一したことになるんですね。

ただ、五園連の2月がないですので、それをオンライン上でやるとか工夫しなきゃいけないですよねというところですね。

○斎田委員　　アンケートが五園連の方の意見も取り入れるべきというのは分かるんですけど、何ていうんですかね、保育園の実態を毎年毎年定期的に測るという意味合いもあるということ、すごくこういう設問がないといけないとか、かなり細かく定義されているわけでもないと思うんですよ、このアンケートの意義が。

であれば、この今の内容を本当にざっと全体を見て、これは要らないよねとか、この設問とこの設問の内容は結構重複しているよねみたいところを消して、記述の問いかけをちょっと変えろとか、何か別にそれくらいの変更で、別に我々で決めて、五園連の方に一応提案として投げて、全体の何かBANDかLINEか分からないですけど、そこで了承を得るといえるか、それぐらいでもういいんじゃないかなという感じです。

○大島委員長　　まさにこれは本音と建前の話ですので、そういうことでも皆さん、各五園連を代表して、園として代表して来ているので、同じことですね。結局、私がやりましたと、代表して今やっているの、実質同じことなんですよ。

だったら、多分、建前上はそれでも五園連を通して、最後に納得いただければいいという話も同じで、それでもいいということです。進め方は、運協のみんなで決めていいと思います、私も。それで行って、ただ、自園の五園の方に相談したい人はもちろん相談してもらってもいいですし、会長に相談してもいいですし、フロント側は私たちがやるという、そういう意味合いです。それでちょっといいですかというのが、先ほどの田畑委員のお話でしたか。

○田畑委員　いや、だからもう一任されて、こっちである程度決めていい、五園連側としてもそういう認識であれば、そんな何かお伺いをたてるというのも何か変な話ですけど、こっちが責任取ってやってという形をつくって、さっき言ったように全体に投げて、了承を得れば、ちょっとそれで案、行きましょうという意味で、シンプルにスムーズに行くのかなという、ただその確認です。

○大島委員長　正直、問題ないと思いますね。やっぱりちゃんと説明できればいいです、こういう意味でこうでこう変えたんですよというだけの問題かなと。

○田畑委員　例えばですけど、けやきの父母会のほうに投げていると、多分そんなに意見が返ってこないで、結局我々の一任で決める形になっちゃうところが正直あって。なので、そういう、うちには一任されているという意識でいけばそれで決めやすいかなとありまして。

○大島委員長　であれば、手法的な話ですけど、こういう話が運協で上がって、いつまでに決めますと。こっちで動いています、何か意見があったらくださいと言って、なければ、もうそれで決まっているのでいいんじゃないですかというところだと思います。

○田畑委員　分かりました。

○大島委員長　そのメンバーに入れたい人がいたら、それは入ってもらっていいのです。

○堤委員長　そんなところで話し合っただけならば。どうだったら利用しやすいかなみたいなのがないと、行政としても主体性がないと言われるのもつらいので。

例えばこの間ありましたけど、利用者である子どもたちもそうですけど、保護者の皆さんの満足度と、どういうところにいい意味の満足度を持っていただいているのかとかを我々としても知りたいところなんですね。もちろん何といても自慢は保育士だと思っていますけど、先生方がコミュニケーションを取っている、そういうところ。その中で、次はニーズとデマンド。今、目に見えてこうしてほしいというものから、もやもやとこういうところがというのもあると思うんですけど、ニーズで、特に行政側としてはどうしても限られた財源と時間でやっているの、それが仮に優先順位づけという言葉

い過ぎかもしれないですけど、特にこっちのほうが重要だよねというのが、そのアンケートを踏まえた運協の議論を含めてもそういうのが浮かび上がってくるといいのかなと。あとは、そのほか自由記述かなと思いますけど、運営について、または運協とかを含めて、決めていることでもこういうことが伝わりにくいかも含めた自由記述とかをいただけると、そういうのはすごく参考になるし、ありがたいかなという思いもあります。

保育に関してのことは、父母会、五園連もそうですし、各園についてもそうですし、ふだんも園長先生をはじめとする保育士の先生方の接点も含めて、いろいろご要望というか意見はいただく場があるんですけども、全体をまとめた形というところではそんなところかなと思います。その上で、ただ五園連としてもこういうところを強調したアンケートにしたいというのがあって、何か形になるのかなという思いがあります。

あと、全体的には10問から15問ぐらいまでに抑えられると答えやすいのかなという気はするんですね。学保の運協とかでも、そういう意味ではメインの質問と自由記述というつくりになるわけなんですけど、これも考え方ですけど、そんな感想は、どういう感想を持っているんだと言われればあるということになります。

中島課長、補足とかあればぜひ。

○中島委員 補足で。結局、アンケート結果の活用とか、どういう改善につながるかの大きなところは、たしか前回もアンケートの実施のスケジュールの絡みでお伝えをして、先ほど部長も学保の絡みで言いましたけど、市のほうは、やはり予算をベースに次年度の業務というか、大きく物事を見直すときにも、マンパワーだったりコストがかかるやつというのは、予算を考えていくんですけど、例年、今、今年で言うと令和6年度4月以降の予算は、もう昨年の秋に財政当局には要求をしちゃうんです。となると、その要求の前までに、このアンケートを含めた形でそのニーズを拾って、改善していきたい部分でコストがかかるものとか、見直しの手法を固めつつ、次年度につなげるという、サイクルがつながるのかなと思って。

今、そのところが、保育のほうの運協でやっているアンケートは、サイクルがずれて、もう予算要求をやった後にアンケート結果がまとまりましたよねという部分で、まとまって、なおかつ五園連さんでちょっとその結果を持ち帰って、要望の取りまとめが年明けになる。ただ、そこはずれている部分はあるのかなと。今後は、こういった部分を市の業務見直しのところに、行政側の視点では、合わせていただくと動きがより見える流れになるかなとは思っております。

ただ、一足飛びにそこに行けるかどうかは置いておいて、一つ視点としてはそういう流れに持っていくことで、私たちも来年度の予算をこういった見直しをするために、保護者の方の意見、こういうのが優先度が高いんだよ、だからこういう取組をしたいんだ。市の内部でそういうふうに進みたいという話も踏まえた上で予算を取っていくんだという動きが取れる。当然、その根拠の皆さんのご意見になるかなと思っています。

私のほうからは、そういう視点での補足の説明をさせていただきます。

○堤委員長 それに補足なんですけど、基本的には予算要求自体は10月の中旬にあります。11月の前半に財政とのヒアリングというのがあって、1月の中旬に予算内示となります。これはどうしてもというのは、市長の前で復活要求というのをかける。だから1月の中旬には予算案が固まるということですね。各種いろんな関係者を説得しながら動きをつくりたいと思うと、8月ぐらいから仕掛けていくことになります。で、9月というのは一つのポイントなる。見積りを取ったりすることを考えると、9月ぐらいからこういうことが必要だと見えると、見積りを取って間に合わせやすい。10月になると一部間に合わなくなってきたりします。あと、ヒアリングのところちょっと修正をかけたりします。言い方を変えると、後ろのほうになってきても、もちろん意味はあります。ただ、行政としてこうだろうと思ってやった予算要求の上で、ちょっとご要望とか感触とのずれとかを埋めて翌年度に生かしていくというサイクルになりますね。

これは、大島委員長も悩まされているように、このアンケートの回答が分かった上で、この回答かというクオリティの問題とタイミングの問題のバランスですから、早ければいいともならないし、遅いと入る時期がちょっと遅くなるとかというのをバランスをどう取るかということだというのは、もちろん理解していますけども。

○田畑委員 参考までなんですけど、今年度のこのすごいボリュームのアンケートを集約するのに、大体どの程度の日数が必要ですか、市側で。

○中島委員 今回、全てオンラインでやっていただいた部分があるので、取りまとめは昨年よりもかなり素早くできたかな。それはオンライン化を昨年の夏前に議論させていただいたときに、集約としては全てオンラインで、今までアナログのときは自由記述を入れながら。

○堤委員長 全部手入力でしたね。

○中島委員 手入力があったので、それが全くなくなりましたので、速報もかなり一、二週間で出せて、ある程度誤字脱字のチェックぐらいであれば、かなり早くまとまったという状況まで改善できたかなと思っています。

- 田畑委員 それが例えば10から15問とかにばつと減ったら、そこはあんまりスピード的にはあまり変わらないですか。
- 中島委員 そのスピードは、行政の処理というよりは、保護者の方の回答にどれだけお時間を取るかによるかなと思っています。昨年もその議論がありましたよね。結局、昨年は、途中経過を見て、回答率が思わしくないなので、お答えしていただく期間を延長したがために結果が遅くなりましたよね。
- なので、そこは設問をどうするかで、答えやすくなった分、昨年設けたお答えできる、お答えしていただく期間を短縮するかどうかの議論のほうが日数には直結するかなと。業務作業というか、そのところはオンライン化で、皆さんのほうにご理解いただいて、かなり劇的にの改善ができた部分なので、あとはアンケート自体のボリュームなのか答えやすさなのか、そのところを踏まえた回答期間をどれくらい設けるかによってきます。
- 田畑委員 ありがとうございます。
- 斎田委員 その10から15問ぐらいの。
- 堤委員長 必要なら30問でも50問でも取ったほうがいいかと思うんですよ、もちろん。
- 斎田委員 いや、このアンケートは簡素化すべきものかなと私はずっと思っていて、何か簡素化することで、さっき中島課長がおっしゃっていて、スケジュール、予算取り、行政としての翌年の予算取りに合わせられるようにアンケートを実施することができるんじゃないかなと思っていて。
- 堤委員長 可能なら9月の運協のときにアンケートを見て、我々行政側も見るとし、五園連側の委員、役員である皆さんも見ますよね。それで、これはこういう背景があるから、このアンケートの状態、去年と比べても変わってきているし、ここは今年のポイントだねみたいな共通理解とかが、または気づきの種みたいなのができるとより深くなるなという思いはあります。
- 斎田委員 そうです。何か早めると、何ていうか、例えば入園して間もない方がもういらっしやると思うんですけど。
- 堤委員長 難しいところですね。クオリティが下がる。
- 斎田委員 だから、その方々はもう答えなくてもいいですというふうにしてしまうのもありんじゃないかなと思っていて。母数は減りますが、それだけ内容は、質は信憑性が上がるんじゃないかなと思っていて。

○中島委員 前回の議論で、アンケート実施時期については、第三者評価とも被らないほうがいいとかもろもろありましたので、前回の議論の中では、7月の運協実施後、すぐできるといいねというのが一つ、スケジュール的なお話があったかなと思っています。それも今日メモでお手元に、前回の議論で7月の運営協議会后、速やかに開始できるといいねというのは、そういった部分はあったかな。

7月にやると、4月に入園したばかりの方は分からないままというんですけど、逆にじゃあ、取るタイミングで見方が変わるから、遅くなればなるほど、もう5歳クラスの卒園する人は、もう来年いないのに答えるのみたいな。時点の切り取りは全て公平には行かない側面があるとしたら、斎田さんがおっしゃるような、対象外にするというわけではないですけども、やむなしの部分はあるとは思いますが。取るタイミングで、それを言うと、途中入園の方は分からないわけですから。

○斎田委員 そうですね。

○中島委員 だから、あんまりそのところは全て完全な公平は難しいと割り切っていただくのは、一つ考え方はあると思います。早く実施すると入園したばかりの人は答えにくいから、もう少し開始時期を遅らせればいいというのは、そこを優先すると、また違った部分で難しい側面は出るかなと、私たちのほうとしても思います。

なので、7月実施後、見直しも含めてですね、あと項目の見直しもちょっとご議論いただいて、7月の実施のときに、あと保護者の方に回答期間をどれぐらいで設けて、まとめて事前にフィードバックして、8月の早い段階でフィードバックできれば、皆さんの中でご議論いただいて、9月の運協でも、そういう優先度を含めて要望とかニーズとかのご議論がしっかりできるとなると、一つ流れの見直しにもなるかなと思います。

○大島委員長 はい。スケジュールの件は、ちょっと来年もまた同じ話もするのもあれですから、できる、できないは、ちょっときっちり話を決めておきたいと思うんですけど。今のお話ですと、9月の運協の時点である程度要望がまとまっていれば予算要求に間に合うというお話でしたね。

○堤委員長 一番反映しやすいです。

○大島委員長 7月の運協を終えた後に取るということは、そこで取って集計をして、集計結果から、保護者側は、それは五園連の場を持たずに、もう意見交換をして集約するということが必要になりますね。1回だけ、9月の五園連という場はありますが、そこだけでも集約する、スケジュール的に。

○中島委員　　そこが先ほどから私が申し上げている、五園連さん側の要望のまとめという、一つのステップをどう振るのかのところ、どうしてもこのアンケートに絡んでくる部分になっているということですね。それを踏まえて議論しないと、運協でもその要望の取りまとめの議論ができないのか、五園連の本体さんの会議があってもこれなのかというところの整理は必要になります。

○大島委員長　　そうですね。ですので、そのスケジュールがちょっとこちら側の問題なんですけど、五園連、運協のほうでそのスケジュールが来年度でできるかどうかということをやはり決められないと市側としては判断しかねる問題ですので、または現実的かどうかという話ですね。だから、今年度は来年度そういうふうにやりましょうねと例えば決めたとして、それが果たして現実的かどうかということはやっぱり考えておかなきゃいけないのかなと。

　　ですから、スケジュールと7月の運協というのが、今年度で言うと7月8日に運協があって、その後ですぐアンケートを取ると7月10日ぐらいからもうアンケートが動きますと。2週間ぐらいを想定すると7月21日までアンケートを取って、それで集計に入りますと。これも2週間ぐらいとると……。

○中島委員　　余裕を持って2週間見ていただければ確実だと思ってください。

○大島委員長　　となると、8月の2週目辺りにはもう結果を速報でいただいていると。8月は例年、五園連がありませんので、8月の例えば10日ぐらいから8月いっぱいの中である程度五園連で集約するということができれば、9月の運協が9日にありましたね、その場合もう集約した意見を持っていくことができますと。ただ、例年、五園連を介さないで意見を集約したことがなかったので、なかなか難しいのかなというのが私のやってみたところです。間に、今まではこんな意見、まとめた結果が来て、それをまず五園連で説明して次回決めますのでという、大体2回、五園連を挟んでいましたね。それを1回でやるということですね。

○田畑委員　　8月に出て、ウェブで何でも情報交換できるので、多分その五園連の話の意見も、変な話、それが直接その次年度の予算請求に関わる場所、タイトだけれども、直接フィードバックがあるようなものなのでそこは各園で協力するのと、運協の人たちが目的をちゃんと説明できれば多分可能だと。逆に、必ず2回挟むとなるとどうやっても後ろ倒しになっちゃうので、もう、1回でぱんと行けるように改善していかないとずっと同じような感じになっちゃうのかなとは思っているので、可能じゃないかなと個人的には思います。

以上です。

○市岡委員　これも先ほど、まずどうなるか分からないんですけど、一応このアンケートの内容を運協が今年見直しをさせてもらえるよという話になるのであれば、その集計も運協で、まずして、それでその内容を五園連に投げてどうですかというふうにしたほうが多分効率がいいと思うんですよね。ただ、そこもちょっと五園連のほうに投げてもらって、来年度はこういう形で行きませんかという話をしてみてのほうが、結局設問を作るのも五園連、運協のメンバーですし、それでフィードバックとか意見とかも運協のこの五園連のメンバーで話したほうがスムーズに進むような気がするんですけど。

○堤委員長　イメージとしては、8月、速報を出させていただいたところでオンラインとかを含めてちょっと共有して、運協メンバーとしては仮説としては満足度はこうだというふうに、ニーズとしてこれらが浮かび上がってきたという仮説をまとめて、それを一旦投げておいていただいて運協前の五園連のところで承認していただくか、いや、ちょっとここは順番を逆にしたほうがいいんじゃないかと、これを付け加えたほうがいいんじゃないかというような形でまとめていただいたものをその後の運協で言っていたらという感じですね。

○市岡委員　そう、そのとおり。それを来期に向けて五園連のほうに話を落として、大島さんのほうから提案をしていただくのはいかがかなと。

○大島委員長　ごめんなさい。ちょっと今分からない。集計も五園連でやる。

○堤委員長　速報値は行政ですぐまとめますので、その結果を皆さん、運協委員のほうでそれからまとめたいなものを作ってみると、そんな感じですよ。もちろん速報値も五園連の皆さんにお渡しするんですけど、そのまとめ案みたいなのをたたきとして8月に例えば作ってみて、それを五園連のメンバーに投げて9月の運協前の五園連のところで修正、確定できればその後の運協で話し合える、そんなイメージかと。そういう意味では、フラットな真っ白なところから投げるというよりも、たたきを作って、予算要望にじかに関わるというような大きなものをまとめて、さらに直ちに予算要求とかではないけどこの辺は留意すべきかなというのは11月にやってもいいわけですから、とかというふうな流れで。100点は取れなくてもある程度のところにいけないのかなというところですよ。

○関田委員　設問の内容について、今の設問の内容から、どういうものが要望で、どれが予算に関わるかなって吸い上げるのがすごく大変かなと思ったんですけど、もうはっきり予算に

関わる要望がありますかと聞いちゃうのはちょっとやめてほしいという感じですかね。そんなことはない。

分かりやすく、すごく。今だったらおむつ処理をお願いしますとか。

○中島委員 予算という言葉自体がすんなり保護者の方に入らないかもしれないんですけど、個別の項目で、今回のおむつもそうですけど、おむつの持ち帰りを廃止してほしいとか、当然そういった形で書いていただく項目で、それをやるとしたらというのを費用が必要だとか受け止め考えていくのは行政側になるので、保護者のアンケートの段階で予算とかそういう言葉、伝わりにくい聞き方をやられるよりは、ニーズとしてこういうふうには保育園で変わってほしいとかやってほしいというところで従来どおり書いていただくほうが良いような気がします。予算要求に絡むものとなったら、自分が変わってほしいことが予算要求に絡むのかが分からなくなる保護者の方は、その設問に答えにくくなるんじゃないかなという心配は、私のほうで今伺いして思いました。

なので、何かの取組をやる時に人的コストも費用的コストも含めてかかる・かからないとか実現に向けて検討するのは受け止めるこちら側で考えていく部分にはなるかなと。分かりやすいのは、建物の老朽化の修繕とかは確実にお金が絡みますので、ああいったものはもしかしたら項目ごとに施設の維持修繕に絡む部分を項目として分けると結果として見るときに見やすいとかというのは設問の見直しの中でやっていただければいいかなとは思っています。

予算要求という言葉アンケートの中で使うと、分かっていた方以外のところで変に詰まっちゃうことも想定はされると思います。

○関田委員 すみません。小金井保育園、関田です。ありがとうございます。個人的にはお金が絡むものなのかどうかというほうが分かりやすいイメージもあったというのが正直なところなんですけど、何かアンケートの中で工夫できると分かりやすく、吸い上げるほうも楽なのかなと。1回でこれは明らかにお金がかかるよねという要望なのか、いや、お金はかからずふだんの保育の問題なのか、もう今、全部が一緒になっているのでそこから吸い上げていくのがすごく大変なのかなと感じたので、費用面でかかる部分についての要望がすぐ分かるような質問が一つあるといいのかなと思いました。ありがとうございます。

○柏木委員 すみません、時間がという中で。議論を根本的にひっくり返しちゃったら申し訳ないんですけど、このアンケートは予算要求に間に合わせるためにそんなに急いでやらなき

やいけないものなのかもちょっと私には分からなくて、というのはおむつの持ち帰りとかも要望として上がってから実際にこういう結論が出るまですごく話し合いとか時の経過を経て実際こういう保護者にとってはありがたい結論を市が出してくださっているわけで、そのときにぱっと出た要求が、じゃあこれはお金を使うことだから予算要求にしましょうみたいな、ごめんなさい、私もかつて行政の人間だったんですけど、そんなスピーディーさがあるかしらみたいな気が。こういう要望があるんだねということがだんだんじわじわ浸透していくみたいな、その中でみんなもう手持ちの仕事でいっぱいだから新しい要求がどうという暇なんかないんだけど、そうも言ってもらえないぐらい声が大きくなってきたぞみたいな、そんな中で行政の課題がだんだん、病児保育とかもそういうかもしれないんですけど解決していくようなイメージが自分もあって、何かそんなにその年の予算要求に絶対間に合わせるためには何月何日までにやると、やってみたところで、いや、自分が来年もいて私が率先してやりますと責任を持って言えるんならいいんですけど、いや、今年はやっていなかったんですけど次年度の方からこういう作業が増えたんですと説明を結局委員長がされることになるとしたときに、本当にそんなに大急ぎでやった結果が報われるのかという、ただ単にその次年度の人の負担がすごいなと、ちょっと増やしちゃっただけみたいな、前年度の人、ちょっと迷惑だったなみたいな感じになっちゃうと個人的に申し訳ないなと思っちゃった。今日のこの1回の議論をただ蒸し返した、ひっくり返ったら申し訳ないんですけど、委員長が再三繰り返しているように、このニーズをある一定の1年なら1年に1回という定点で、設問数が30問なのか15問なのかとかそういうことは全然見直しできると思うんですけど、一定程度ニーズを回収して行って保護者の代表である五園連と、さらにその代表である運協の委員がこういうニーズがあるねと確認することにこそ私は意味があるんじゃないかなと思っていますので、予算要求ありきで動いていくような、そんな物すごいアンケートなのかと言われるとちょっとはてなみたいに思っていました。

○大島委員長 保育課長。

○中島委員 そういったご意見も踏まえてのアンケートの見直しだと思います。そういった形のアンケートにするのであれば予算要求のタイミングに当然合わせない、となるでしょうし、今、柏木委員がおっしゃった方向性もこのアンケートをどうしていくかの一つの方向性なのでそれをどうするか。

一つ加えますと、スピード感がないという部分は耳が痛い話ですけれども、いただい

た部分でスピード感を持ってやれた場合、対応できる場合があったら私たちは頑張るつもりですので、全てスピード感を持ってやらないとかそういうつもりではないんです。

意見の中で出た小さな部分でも、それなら即座にできるんじゃないかとか、当然、意見として優先度を保護者の方に言っていただく前に私たちと現場のほうで出た意見を踏まえて、これは即座にやれるんだったらやりたいという部分で、日々、毎年度の予算の見直しはかけていますから、そういった部分においては予算編成前にそういった意見が形になっているというのは保護者の方からしたら必ずしもスピード感としては見えないかもしれないですけども、本当に私たちのほうとしては参考になるということだけはお伝えをさせていただきます。

○柏木委員　保育課長さん、スピード感のことを特に言いたかったわけではなくて、このアンケートを予算要求ありきで作ることにさほどの意味があるかみたいな個人的な疑問でした。ありがとうございます。頑張って日々取り組んでくださっていることは重々承知しております。

○大島委員長　いろんな意見が出て、まとまる方向もあるのかなと私は今聞いていて思っています。今日いただいた意見を基に改善できる所と、ここはやっぱそうじゃないよねというところも、いろんな意見が出てきましたので決められるところだけは、まず決めておきたいと思っています。

そういう中で前回話した7月の運協協議会、運協の後に速やかな開始というところ、これはありなのかなと、そのために今年度ある程度整理をしておくというところもできるのかなというところですね。ただ、それをいつまでに上げて、いつまでに集計して要望としてまとめるというところは次年度の運協の方に委ねてもいいのかなと、そこはマンパワーがかかりますので。ただ、情報としては予算要求の時期はここですよと、そこまでに上げられればそれはお話しできますと。もちろん、昨年度、今年度取った私たちの集計のところの要望も、そのときに上げていただければそれはそれでもう出ていますので本年度取った今年度のアンケートの意義がありますし、まず路線としてはそこかなと。一つの意見です。

一方、じゃあ今年度の整理を私たちがやるかというところなんですけど、これも先ほどあったように、次年度に委ねてしまうと昨年度やれと言われてやるんですかみたいなものと同じ話で、今ここで盛り上がって皆さんの意見がいろいろあって熱い気持ちが上がってきたら今年度中にやっちゃったほうが、できるところまで、完全じゃなくてもいい

いですが来年度の運協委員に関してのご提案というところまで、やれるところまでやろうかなというところではできるかなという、その辺はいかがですかね、路線として。

○齋田委員 その予算請求に間に合わせるとかそういったお話は、やっぱりこのアンケートの意義をこの運協の中でもう一度見直すというか再定義が必要かなと思っていて、それが固まればその時期に関してもそれに従って決めればいいだけの話かなと思うんですけど。

やっぱりそのアンケート自体の意義を把握している運協がアンケートを回収して抽出するというのが一番シンプルだし、目的に沿っているのかなというのは個人的に感じていて、2か月おきにこうやって集まって議論をしていると思うんですけど、何のために集まって毎回議題に沿って話していて、やっぱりちょっと他人事なところも、正直、代表している身から言うのはすごく言いづらいんですけど、そういうふうを感じるのもちょっとあったりして、運協としての主な役割としてこのアンケートというのを持ってきて、それはもう運協で責任を持って回収して、中身、その目的もちゃんとみんな把握している上で意見を吸い上げて行政と一緒に議論していくみたいな、やっぱりそういったものを持ったほうがいいんじゃないかなと個人的には思っていて、その負担が増えるということもあるんですけど、それをすることによって保育園役員の運協としての役割というのも明確化されるんじゃないかなと個人的には思います。

○大島委員長 齋田委員に言っていたように、一旦取りまとめを運協委員で行って園長会にも言っていたきましたが、そういうことによって役割も明確化されるというところは私もあると思いますので、それはもうそうしようとはなかなか言いづらい部分で言えないので、こうしたほうがいいですよという提案的な形でまとめを残しておくのはすごくいいのかなというので、まずアンケート内容の改善と手法について次年度に引き継ぐというのが今日の場ではできるかなと思っています。

○齋田委員 ちなみに、私は次年度も、夫になるかもしれないんですけど引き継ぐので、それは伝えておくか私がまた出るか分からないんですけど、そういった議論ができればと思います。

○堤委員長 そういう路線で少しもんでいただいたところで、3月というところよろしいですか。

○大島委員長 そうですね。その案を運協の保護者側として提示するという。

○堤委員長 詳細は置いておいて、ある程度のことは検討して次期にバトンタッチ。もちろん継続される委員もいますので、おそらく僕も課長も異動しないと思いますから、そういう中でバトンタッチをしていってというのができればと思います。

すみません、予想よりも長時間であったと思うんですけど、ありがとうございました。

では、その上でアンケートの2番目の議題である要望というか、今回のアンケートを踏まえてのまとめだけを書いておいて、お話しいただければと思います。大島共同代表、よろしいですか。

○大島委員長 本日、五園連の中で話しまして、五園連として挙げておきたいところについてお知らせいたします。

まず、昨年同様なんですけど、実施体制の強化というところは引き続き欠員状況等を含めて改善等をお願いいたします。

続きまして、これは結構わかたけに特化したところもあるんですけど、トイレのところが外から見えてしまうところがありまして結構オープンになっていまして、これは前々から保護者のほうとかも声は上がっていたんですけど、やっぱりこのトイレの修繕とかを考えるとなかなか敷居が高いです。カーテンとかそういうできる範囲のものを考えていただいて、なるべく迎えに来た保護者からは見えないような、そういうような配慮ができるような形を希望しております。

もう1点がコドモンという話が上がりまして、まず質問なんですけどコドモンの故障が多いという話があって、これは多分複数の園で起きていると思うんですね。せっかくあるコドモンが何で使えないのかというところが上がっていて、原因とかが分かればもう今日場で聞いておきたいと思うんですけど。

○中島委員 ソフトというか、結果としてはベンダーというリースで端末等をやっています。コドモン自体はクラウドサービスなので、自治体としては端末機器とリースしているSIMカードの問題という物理的な問題が一つ。あとは、皆さんご存じのとおり、物理的な側面じゃないコドモンの障がいというのも年に何回か起きています。コドモン自体、クラウドサービス本体のほう、コドモン自体の不具合というのが出ています。今回、主に長引いた物理的な部分について私たちも問題だと思っていますので、改めてリースをしているところと連携を取りながらやりたいと考えています。

実態としては、今回は代替機の準備等でそのリース元からのリアクションが非常に時間がかかったというのが問題だったなと。私たちのほうとしたら即座に代替機の用意等を要求してたところなんですけど、持ってきたものがまだしっかり動かないとか、それが重なった部分が今年もあったかなとっております。引き続き、当然導入した機器でするのでサービスがきちんと使えるようにやっていきたいと思っています。今年の原因に

については物理的な側面の長期化になります。

○堤委員長 確認ですけど、端末の賃貸借の経緯と保守の契約があって、それでは故障時には速やかに代替機を用意することになっているんですよね。それをもちろん履行を求めるところなんですけども、今回はすぐ使える代替機を事業者側が用意できなかったということがあって、これは契約の問題でもあるので繰り返さないようにしっかりやっていきたいが、今回はおわびになりますけどそういうふうな状態になってしまったということです。だから、基本的には次は当然改善されるだろう、改善されるように行政側もやっていくということになります。

○大島委員長 続きまして、前回の運協でも話は上がりましたが、病児保育・病後児保育の改善というところはやはりあります。他市の状況も少しは調べていまして、金額だったり時間、何時から何時まで使えますかとか、あとは給食が出ますとか出ませんとか結構ばらばらなんです。その中で、小金井市は結構高かったり使える時間帯が短かったり給食がありませんというところがありますので、やはりもう少し何かしらの改善というのが、利用率を上げることというのは、変な言い方ですけど、利用者目線で使いやすくするためにはやっぱりもっとやるべきことがあるのかなというのが意見としてはありますので、具体的にここをこう変えてくださいというのも難しいと思いますから、そういう視点で検討をいただいて何か結果としていただければと思います。

それと併せて、今日の意見の中で、在宅勤務に特化するかもしれないんですが、病児の子を今日は保育園に預けられないときにベビーシッターを頼めるようにできないかという。ベビーシッター自体が結構ハードルが高くて、使っている方はほとんど、今日はいなかったんですけど、例えば在宅勤務をしていますと、何かあったらすぐ横にいますと、ただ、仕事をしているので子どもの面倒は見てほしい的なベビーシッターだったり、あと、子どもも実は元気なんですと、もう1日、2日間ぐらいは預けることができない、待機しているんですけど本当に元気で、ほとんど見た感じではもう元気で、ただ家で預からなきゃいけないと、そういう結構スポット的な条件が定まるところかもしれないですけど、そういう中でもやはり在宅勤務をしなきゃいけないので仕事に専念できるようにベビーシッターを頼めないかとか、そういう視点も何かないですかというのが上がりました。

もう一つも前回は話が上がっていたと思うんですけど、予防修繕というところで、施設の老朽化はもうどうしようもないんですけど、やっぱり定期的に予算を積んで、壊れ

ないというのは難しいので壊れにくくなるように考えて計画的にやっていただきたいというのが意見となります。

○堤委員長 保育士体制、主にわかたけのトイレ、またコドモンの故障、病児・病後児、あと関連して在宅勤務の方のベビーシッターの利用、それから計画的な予防修繕についてというところでご意見をいただいたという理解です。

課長、今答えられる範囲のところでしょうか。

○中島委員 わかたけのトイレの部分の工夫については、現地と調整をさせていただく案件かなと思います。コドモンの件については先ほどお伝えしたとおりで、病児・病後児は、前回もお伝えしましたが施設の形態が直営ではない、事業者の方に委託でやっている部分もありますので、その事業者さんがどういうサービスに、そちら側も何かプラスアルファになると人員の体制を確保したりとか、そちらの体制、そのところが対応できる部分もあるか、それについて必要であれば市のほうが業務委託の費用をコストアップしないと対応できないとか、そういったところにつながっていくご意見だったかなと思っています。

いずれにしても、前回も言いましたけれども、病児・病後児保育をどうよくしていくかについては課題として受け止めさせていただきます。ベビーシッターのところはちょっと今即答が、そういうニーズのところでどううまくできるかというところは非常に難しいかなと。病気のお子さんのところになるのか、ベビーシッターの補助自体が23区とかベビーシッターのサービスが多いところについて利用料の補助という考え方はあるんですけども、小金井市のほうは現状、26市側のほうでは事業者さんも少ないことからそういうスキーム自体を設けていないのが実態になります。いずれにしても、そういった在宅のワーカーの方とかのニーズが高いというところについては受け止めをさせていただきますと思います。

予防修繕についても、この間、施設の老朽化を含めて、あと、故障する前にどうにかできないかというのはまさしくおっしゃるとおりかなと思っています。昨年の夏の非常に暑い中では、特にエアコンとか命に直結する部分があったかと思っています。保育園では去年は本当に危機的なところまで、本当にまずいというところ、行っちゃいけないんですけど、行くところまで行かなかったんですけど、市内の公共施設によっては使用を停止せざるを得ない施設が出たのも実態でございますので、そういった側面を含めて予防的にというのは、私たち保育課の現場だけではなくて、公共施設をどう管理していくか、

マネジメントしていくかという部門もありますので、そういった部署と連携を取りながらどうやっていけるか。私たち現場を預かっている者としては、そういう緊急対応についてやはり園と連携しながら即座にやっていければと思っております。

一旦は、いただいたご意見についてはそういうふうにお答えさせていただきます。また引き続き保護者の方にもご協力いただくことがありますので、ぜひよろしくお願いいたします。

○大島委員長 3月の時点で何か答えられるところはまたそのときにいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

これは文書か何かで、今日の口頭で大丈夫ですか。

○中島委員 はい。現状は今、口頭でお答えした部分で以上となります。

○堤委員長 この点についてはアンケートから浮かび上がってきた課題として集約していただいたことだということですので次期にも引き継ぐとともに、3月というところを含めて進展があったところ、それからあと予算要求のタイミングとかを含めて改善が見えたところというのを逐次ご報告するとかという形で進展、もしくは仮に難しい点があったとしてもその共有とかは進むようにというふうにできたらと思います。

そうしたら、(2)は終了ということにさせていただいて次の議題に進ませていただきたいんですが、公立保育園でのおむつの持ち帰り廃止についてということ。

○中島委員 じゃあ、私のほうから。

○堤委員長 お願いします。

○中島委員 そんなに時間は取りません。この間、先ほども話題に上がりました、長くご要望いただいていた部分については、令和6年4月からおむつの各保護者の方の持ち帰りがなくなるような形の取組を進めます。もう12月の市議会の時点で、それに向けた園でのダストボックスとかごみ箱の準備を先に購入して4月に向けて準備するという手はずを整えております。正式にはそういった持ち帰りをなくすための別の予算とかは、次の第1回定例会、2月、3月にある市議会でも、当然、関連予算のほうをご提案して、議決をいただいたら正式なんですけれども、私たち、速報としても12月にごみ箱を買うのはオーケーをもらっているんで、当然、4月ももうこのまま行けるなと思ってございます。

あとは、保護者の方へのご案内等も含めて、それは現場の園のほうとも調整しながらですけれども、まずは4月からの持ち帰りについては廃止させていただくことを進めさせていただきますので、よろしくお願いいたしますということになります。

私からは以上になります。

○堤委員長 お待たせしましたというところがあると思いますが、この間もちょっとご説明させていただいた、なかなか全体的に難しい調整もあったんですが、各園の検討、協力も得まして、4月から無事予算が可決されましたらすぐということになっています。これについてご質問とかはありますか。

○市岡委員 これも多分春頃とかに話があったと思うんですけど、結構いろいろ課題があってというところがあるんですけど、それに対してどういうふうに改善とか、もうコストの部分もあります。何かそのごみを保管する場所とかの課題もあったと思うんですけど、その辺はどういうふうな形でうまくいって話が進んだのか聞きたいんですけど。

○中島委員 現場のほうとは、先ほどダストボックスの話もありましたけれども、臭いが外に漏れないように密閉度の高いしっかりしたダストボックスが必要じゃないかという部分の議論も当然やりましたし、コストの部分で申し上げますと、最低限の費用でどう収集できるかという部分については既存の収集ルートを活用しながら事業系ごみ袋で出すという手法が一番コスト的に問題がないんじゃないか、ごみの分量についても、こういう取組をやっていく中で減量の取組、市全体のごみの減量も進めながら、その中で一定の量で収まるんじゃないかというところを庁内的に議論して、環境部のご協力も得ながら実施にこぎ着けたというのが実態になります。まずはやってみてのところは当然あります。やってみて何か問題があったら、そのところは随時改善をしていきたいと思います。私たちが今回初めてですので、ただ、取組自体のやってみないと分からない課題については随時の対応を考えています。今現在はこの答えでお願いいたします。

○市岡委員 民間のほうというのは特にそういうのは、取りあえず公立の保育園だけ。

○中島委員 実は民間保育園のほうはもう9割以上、もうほぼほぼ持ち帰りが廃止になっていた中で公立の保護者の方から民間はほとんどやれているのにというご要望だったとおっしゃいます。民間保育園さんのほうについては国と東京都と小金井市で運営費をお支払いしている、プラスアルファ市のほうで運営補助、いろんな保育活動に補助金というのを出しています。そういった補助金とかも活用しながら事業者としてのごみの排出として個別の処理を進められて持ち帰りの廃止とかをやられていたんですけど、公立のほうは検討がずっと難しかった部分があって取組が遅れていた経過があります。民間保育園のほうについてはほぼほぼ持ち帰りが廃止になっています。

○市岡委員 分かりました。ありがとうございます。

- 堤委員長 ご質問とかはないでしょうか。どうぞ。
- 大島委員長 利用者側からして、例えばどんなおむつでもいいとか、こういうルールになりますとか、何か今の時点で決まっているものはありますか。
- 中島委員 一般的に言われているような、まず皆さんが使われているような、会社の違いはあるけれども使われているような紙おむつだと思います。それについて何が駄目とかというところはないです。
- 大島委員長 紙おむつならいいということですね。
- 中島委員 はい。当然、可燃ごみとしてなので、通常の紙おむつは可燃として処理する前提ですので紙おむつの回収のイメージです。
- 市岡委員 これは多分園のほう、園長先生に聞きたいんですけど。これで変わったことは、先生方とかには特に負担とか何か、そっち側のものは特にはないんですかね。ちょっと意見を少し聞きたかったんですけど。一部持ち帰って一部は捨てていただいていたと思うんですけど、そこが変わって全部となるとなど、よくなるのかちょっと手間になるのか、そういうのがあれば聞きたかったんですけど、いかがでしょう。
- 杉山委員 わかたけの杉山です。今は持ってきていただいたおむつにみんなお名前を書いていたと思います、間違えないように返さなくてはならないことが、なくなるかなとは思っています。間違えてお返しするのもまた失礼に当たりますが、なかなか結構そこは手間がかかるところなので。
- 堤委員長 仕分の手間ですね。
- 杉山委員 はい、ところはあったかなというのはあります。
- あとは、まだやっていないので慣れていないので、今は一つのごみ袋にどのぐらい入るのかとか、それをどの時点でダストボックスのほうに持っていきといいかなというシミュレーションを多分各クラス、園でやっていると思います、置いておく場所が限られるので1日に1回だと足りないかなとか、もしかして何回も持ってくるようだったらちょっと手間かもしれませんが、もうこのご時世ですし、私立園さんたちはもうお持ち帰りがなかった中でなかなかできなかったところでもありますので、これから工夫してやっていけるんじゃないかなとは思っています。
- 市岡委員 何か人員が足りないとかと言っているのもあるので、そこですごく負担になってしまったらもう大変なのかなと思って、そこは公立保育園でやっていただければ一番いいなと思ったので、よろしくお願いします。

○堤委員長 ありがとうございます。

○関田委員 すみません、すごく細かいんですけど。今伺って、記名して持って行って、一応、名前が書いてある個人情報のものを園で処分してもらうということなのかなというところで、ちょっと気にされる方ももしかしたら中にはいるのかな、でも記名するということは変わらず続けるということ。本当に細かい問題ですけどあるのかなという気はしましたね。

 そこを、面倒くさい、マークにするとか何か、うちは処分するときはもう書いてあって気になりつつも捨てますけど、でもちょっと丸見えだと嫌だなと思うときもあったので、家で捨てるときに、ゴミ箱の鍵をつくってということで管理はできる。

○事務局 今回要求してまいります契約のほうを進めている途中ではあるんですが、各施設内に大きいダストボックスを最終的には用意する予定です。そのダストボックスは鍵穴がございまして、鍵をつけるということは可能にはなっていますので取りあえずそういった形で対応する予定です。

○関田委員 ありがとうございます。そういった部分で少し安心される方も中にはもしかしたらいるかもしれないというふうに感じました。ありがとうございます。

○堤委員長 ほかに質問のある方はいらっしゃいますか。

 では、その他のほうに入りたいと思うんですけど、事務局からその他はありますか。特にはないですか。

 そうしたら、保護者の委員のほうからその他として議題があればいただきたいんですが。

○中岡委員 さくら保育園の役員会として出た案件として、今日の五園連で少し出たのですが、基本的にさくら保育園は段階的に縮小する流れの中で、様々な保育体制の環境の変化だとかそういったことについて敏感になっている保護者の方が非常に多い状況がまずあるという状況があった上で保育環境がこれからどう変化していくのかみたいな話を、ぜひ耳が痛いところも含めて本当のところを聞きたいというのが多分あるんじゃないかなというふうに伺っています。今日、五園連で、端的な例なのか分からないし、具体的に別の理由があるか分からないんですけども、保育体制、保育士さんの数とか職員の皆様の数とかも含めて絶対数が減っていく中でできなくなるイベントだとか行事だとかというのがそもそもほかの園と比べて起こるのかどうかということをご伺いしたいという話がまずありました。例えば今日の五園連のお話であったというふうには伺っているん

ですけども、ミニアップル劇場とかしゃぼんだま劇場みたいなそういうちょっとしたイベントがさくら保育園では行われていなかったよねというような話があったようで、保育体制の環境の変化によって運営が難しいというお話なのか、全く別の理由でそうなっているのかというのがあって、そこにすごく、今年のかどうか、分からないですけど役員会の皆さんそのものが非常にその変化にセンシティブになっているところがあったんで、この説明をもしいただけたらなというふうに思ったということでご連絡させていただきます。

○柴田委員 一番答えやすいところからお答えします。しゃぼんだま劇場やアップル劇場の代わりになるようなものはさくら保育園ではさくらんぼ劇場とって、職員が子どもたちに見せてあげる劇場等があります。さくらんぼ劇場と、地域の小さいお子さんたちも見られる、乳児のお子さんを対象にミニさくらんぼ劇場を、年間1回ずつ行いました。

段階的縮小の影響でできなくなる行事とか職員体制も含めて、さくら保育園はいろんなことが昨年もありましたので保護者の方にはかなり心配をかけてしまっていると思うんですが、今いろんなことを検討しています。段階的縮小でできなくなることへの不安とか対策というのも含めて考えますが、今はこの環境をうまく利用して今までやっていなかった別のお楽しみや取組も何かできるかというような話も含めて、現在、職員と話し合いを重ねています。来年の4月の懇談会には決まっていることとか取組に関して保護者の方にお伝えできたらいいなと思っています。

市で行う説明会だと、どちらかといえば市長が来る機会はあまりないのでそちらに特化してしまうような質問が多くて、保育に関しては簡単にしかお伝えできていません。そのため不安をあおってしまっているようなところもあると思いますが、園で行う懇談会ではいろんなことがお話しできると思っています。園としては春の懇談会にいろいろお話しできると思っています。アピールが園としてはできていないため、何も考えていないと思われて、保護者に不安を抱かせてしまっているような状態なんだというのがよく分かりました。2月にも懇談会がありますので、そこでも少しお伝えできたらと思いますのでよろしくをお願いします。今、話した内容で大丈夫ですか。

○中岡委員 大丈夫です。ありがとうございます。

○大島委員長 ありがとうございます。じゃあ、私のほうから1点確認ですが、保育士体制の話は要望の中で上げていますが、現状、保育士体制のところは、今、欠員状況は、ちょっと事前にくださいと言っていなかったんで資料があるか分からないんですけど、状況的には

各園、全体的に通してもいいんですけどどうでしょうか。改善に向かわれているところもあるのでしょうか。

○中島委員　お伝えできる部分、細かな実態はなかなか難しいんですけど、どうしても年度途中の普通退職とかもある中で正規職員の採用試験は職員課のほうで随時やっていたところですけれども、年度途中の採用はもう一旦難しいということで、今は職員課のほうは来年度4月の採用試験のほうにシフトを切り替えている実態です。

ですので、前回の運協以降、劇的に職員体制が改善できているという状況ではございません。もう年度途中の採用という形ではなくて4月採用のほうに、前回の運協以降、人事部門は試験のウエートをシフトしています。今は人事部門としては4月の採用に向けて試験のほうをやっている、繰り返しているというか、現状、正規のほうの応募が実態として少ないために3回目の試験を打つというところで3回目の試験の話が今出ている。正規の募集、簡単に言うと、1回やっても想定、多分見込みの確保がイメージどおりいかないと2回目の試験をやる、それも無理だから3回目という段階までやっているのが実態です。

○大島委員長　分かりました。あと、またさくら保育園さんで申し訳ないんですけど、今日は五園連の来た方で話していたところで、昨年ですかね、ちょっと病気の方が増えたとか体制上そういう時期があって、散歩の回数が減るとか連絡帳になかなか書くことが難しいとかそういう時期があったと思うんですけど、それが今年度採用ができたという中で改善したということもあると思いますけど、その件についても改善されたんでしょうかということをお話をいただきましたので、その辺で何か、その件はもう終わっていると思いますか、改善していると思っていいいのでしょうか。

○中島委員　局所的な部分で言うと、昨年、さくら保育園のほう年度途中の募集を一旦止めさせていただいたという部分については、前回は多分お伝えしたと思うんですけど募集は再開等していますので、そういった事象については一旦、年度途中の募集を止めたりした部分については再開もしていますし、それでその事象についてはクリアしたかなと。ただ、公立保育園全体の職員体制の欠員状況の解消という部分については引き続き。

なので、言うなれば昨年さくら保育園で起きた事象は今頑張っているぎりぎりのところがさらに割ったがために引き下げざるを得なかった部分のお話なので、一旦はぎりぎりのところには戻っているけれども、本来はここよりも欠員等が解消できればもっと職員体制が確保できるのが、ここが私たちが目指しているところというふうにご理解いただ

ければ。

○堤委員長 去年の3月と、それから去年の夏の件があったんですね。去年の3月の件は、本当にさくら保育園のほうで努力していただいて一旦収まりました。ところが、さらに病気の方が出たこともあって夏の件となりました。それは10月1日採用のところで園長方にもご協力をいただいて、さくら保育園に充てようということをご協力もいただいて回復した形になっています。ですので、ぎりぎりの中、頑張っているわけなんですけども、一応そこはクリアして4月を迎えたいということの状態です。今、そういう意味でまた去年の3月ようになるという差し迫ったものはないということになります。

○大島委員長 3月の件というのはその……。

○堤委員長 お散歩の回と連絡帳ですね。

○大島委員長 連絡帳も回復して、募集も再開したので、その二つはもう解消済みですよということなんです。ちょっと質問を受けまして、分からないということを書いていましたので、そういうことは連携しておきたいと思いますので。

2点目ですが、次年度になるんですけど、来年度の五園連の総会を4月に、日程確定はしていないんですけど、そこに新規の五園連のメンバーが出ますのでその場に市長に来ていただきたいという要望が上がっています。そこで対話の場が持てないかということは今日の五園連で話が上がりましたので、大体4月の2週目か3週目、2週目、そこはちょっと市長のスケジュールと合わせることもできるのかなとは。

○堤委員長 4月の第3土曜日ぐらいが目途ということですか。

○大島委員長 そうですね。

○中島委員 その総会は確定ですか。

○大島委員長 総会のことは確定ですが、まだ日程は確定していません。

○堤委員長 今のお話だと、例年、第2週の土曜日になさっていると意味では4月13日だけど、例えば13は無理だけど市長が27が空けられることであればご相談の余地も今ならあるということですね。

○大島委員長 その理由としましては、今年度にもう一回、対市懇談会をやりましょうという意見も上がっていたんですね。ただ、今年度に行くと今年度任期終了の五園連の方も多いですし、やっぱり次年度に引き継いでいかなきゃいけないという中で考えると、4月だったら今年度の人がいれば来年度の人もいるので、そこでやって継続的に対話していくことがいいんじゃないかというのが今日の五園連でまとまった話。

- 堤委員長　　そうですか。もうちょっと伺っていいですか。何時から開会で、どの時間に最短の場合に市長にいてほしいか教えてください。白井市長にお休みはほとんどなく、予定は必ずあると思うんですね、まして4月だと。ただ、会は何時から何時で、仮に1時間だけいてもらえるなら何時から何時が一番いいみたいなところを教えてくださいたいんです。
- 大島委員長　　去年は2時間ぐらいはとって1時から3時みたいな枠で、去年、4月15日にやっているはずなんですけど、多分それぐらいの時間でやっていました。
- 中島委員　　基本、例えばですけど、全部市長がいられないときにその時間帯の中で優先で来ていただきたい時間は、例えば会の最初がいいのか終わりがいいのか。
- 堤委員長　　真ん中がいいのか最後がいいのかみたいなことですね。
- 中島委員　　もし即答ができなければ、これは個別に大島委員長から最終的に市のほうにお伝えいただくでもいいですかね。
- 大島委員長　　そうですね。今、何時から何時までがいいとかはまだ決められない。第一希望第、二希望とかを出しておくのがいいですかね。
- 中島委員　　じゃあ、そういう部分で、すみません、大島共同委員長に取りまとめていただいて保育課のほうにまずはいただく形でいいですかね。
- 堤委員長　　市長とも調整してということですね。では、そういう形をお願いします。
- 場合によっては、最初から最後みたいなのは難しいと思います。僕の子ども家庭部系のほかの行事等でもそうだったりするので。ただ、そういう意味で、最初から最後まで何時から何時、特に最初、真ん中、最後、調整がつく部分もあると思うんですけど、それだったらどの時間帯がいいのかなみたいなのをいただければと思いますので、よろしくをお願いします。
- あと、ほかにその他議題とかはございますか。リモートの方もいかがでしょうか。よろしいでしょうか。
- はい、どうぞ。
- 石塚委員　　議題じゃないんですけど、すみません、私が前回ご質問させていただいた育児休暇中の子の保育の継続の取扱いについての件なんですけど、メールを多分10月末ぐらいにいただいて検討していただいて、くりのみとさくらにつきまして延長していただいたということを僕も伺っていますので、そこは検討していただきましてありがとうございます。感謝をちょっと申し上げたくて、ありがとうございます。
- 堤委員長　　ありがとうございます。

○石塚委員 以上です。

○堤委員長 では、よろしいでしょうか。

次回は3月16日、同じ801会議室を実施予定としていますので、また通知等は差し上げますが、お忙しい中、恐縮ですけど、よろしくお願いいたします。

それでは、以上で本日の日程は全て終了しました。会議を閉じ、散会とさせていただきます。本日はお疲れさまでした。また引き続きよろしくお願いいたします。

閉 会